

協議会ニュース

4号

愛知県自然観察指導員連絡協議会

58.6

◎ 地質現象にみる保全の昔と今 (池田芳雄) 1

{ 地域情報 }

・葦毛湿原の花 (2) 一ササユリー 2

◎ 鈴鹿山系のほ乳類メモ (/) (名和 明) 3

◎ カモシカ食害防除学生隊 (カモシカの会) (都築尚子) 6

{ 会員広場 }

・花の名前 (糸魚川とみ恵) 7

・自然を大切に (西郷光男) 7

{ 自然観察情報 }

・木の幹を石こうで作ってみよう (渡並喜一郎) 8

◎ 協議会行事報告 10

◎ 行事案内 11

◎ 会員の移動 11



(この他に幼虫が水の中
で生活するカゲロウがいる)

地質現象にみる保全の昔と今

池田芳雄

現在では、学術的に価値の高いものとか、保護しなければならないすぐれた自然などは、「天然記念物」とか「自然環境保全地域」に指定する方法、つまり法の規制によって、破壊・散逸を防ぐ場合が多い。では、こういった法のできる以前は、どのように保全していたのであろうか。ここに結果として見事にその役をつとめていた面白い例を紹介してみよう。

それは、知多半島西岸の内海から南東 500m 程の所にある名勝地、礫浦（つぶてうら）の礫である。この礫は岩質が領家片麻岩からなっており、人頭大から径2~3m のものまで大小さまざままで、海岸にごろごろしている。知多半島の地質は、第三紀の砂層・泥層を主体とし、それらは半固結または軟質の岩石である。礫浦で見られるような片麻岩の露頭は、付近のどこにも見当らない。

伝説によれば、昔伊勢の神様達が力比べに投げ、それが海岸に散在するものとされているが、現在のところ地質学的に礫浦の礫の供給源は十分に解明できていない。礫浦になぜ礫が存在するかという疑問も大切であるが、それよりも局所的に少ない量の礫が今日まで散逸することなく、残存していることの方が一層重要である。

硬質の石材が産出しない知多半島においては、礫浦の礫だけが硬質で最も簡単に入手できる用途の広い岩石とみてよい。たとえば、家の土台や石垣用としてだれもが注目するのが当然である。ところで、この石は「己の家敷に持ち来れば必ず災い生ず」と言い伝えられてきたので、誰も勝手に運び去ることなく、自然の状態が今日までずっと続いてきたものと考えられる。

いつの頃、誰が言い出したのか知るすべもない。保護しようというねらいがあったわけでもなく、素朴な感情、あるいは古代の盤座（いわくら）的な発想で言い伝えが生れたのかも知れない。しかし、これが保全に十分効力を發揮したことは否定できない。

もう一つの例は、岡崎市蓑川町にある珪質片麻岩の円礫で、「馬頭原

の怪石」として伝えられているものである。鶏卵大の美しいものは拾つてみたくなるが、この石に触れると必ず熱病にかかると恐れられている。

現代社会では、篠浦の篠や馬頭原の怪石に関するような言い伝えだけでは、昔のような効果を期待することはできない。だから法で規制されていないものは、その価値を十分 PR し、相互の理解にもとづいて保全をしなければならない。そう言った意味からも自然観察指導員の活躍は今後大いに期待される。

(岡崎高校教諭・協議会顧問)

{ 地域情報 }

「葦毛湿原の花」(2) 一ササユリ

東三河支部

ショウジョウバカマやバイケイソウ、ヒロハノアマナなど20種近く咲くユリ科の花の中で、香りの優れているのはササユリである。

初夏の毛で、この花をカメラに収めるのは誠に苦労する。遠目にもこの淡紅色は誘うに十分な容姿をしているのだが、近づいてみると花弁に茶色の斑点があったり、虫にいじめられていたり、花粉で汚れていたりする。また、この時期には雨の日が多く、風の無い日は少ない。

百数十株のササユリが2ヵ月ばかりの間に咲き乱れるが、すきとおるよう品のよいピンクのものはカタクリ山の中腹と山頂の自然歩道付近の2ヵ所2株だけだ。毎年この花の開花を心待ちにしているのだが、なぜか開花時期を逸してしまったりで、満足のゆく花に出会うことはめったにない。

和名は「葦百合」で、葉が葦に似ているのでこの名がある。自生地は、太平洋側では静岡県までで東北地方には産しない。

自然増でしか育たないこの花も、かれんなばかりに哀愁の感がしてならない。

鈴鹿山系のほ乳類メモ……(1)

名和明(名古屋市)

「鈴鹿」とは古語で雌鹿の意味があるといいます。鈴鹿の里山に行けば獸が見れる、と保証はできませんが、まだまだいろんな獸が生息していることは確かです。私はここ10年ほど鈴鹿山系北端の靈仙山(標高1084m)などで、ほ乳類を観察してきました。今回は中型ほ乳類を中心にその生態を報告したいと思います。

靈仙山で観察できた主なほ乳類は、次のとおりです。

- ・オナガザル科 ニホンザル
- ・ウサギ科 ノウサギ
- ・リス科 ニホンリス、(ムササビ)
- ・イヌ科 ホンドタヌキ、ホンドキツネ
- ・イタチ科 ホンドテン、ホンドイタチ、ニホンアナグマ
- ・イノシシ科 ニホンイノシシ
- ・シカ科 ニホンジカ
- ・ウシ科 ニホンカモシカ(特別天然記念物)

[ニホンザル]

研究者の多いほ乳類といえばネズミ類とニホンザルは双璧でしょう。確かにいつまで見ていっても見あきないほどその表情は豊かで、行動にも変化があります。サルの群れは、通常まとまったものではなく、20~30頭の個体が100m以上にも分散して、三々五々採食移動してゆくかなりルーズなものようです。

秋のある日、観察路の下草刈り中に、実のなった樹上ですわって採食中のハナレザルを発見しました。こういう時は、下草刈りの手を休めずに近づくにかぎります。休んでサルの目を見つめると、とたんに警戒されてしまいます。このサルは、よほど空腹だったのか排尿しつつもさかんに採食していました。

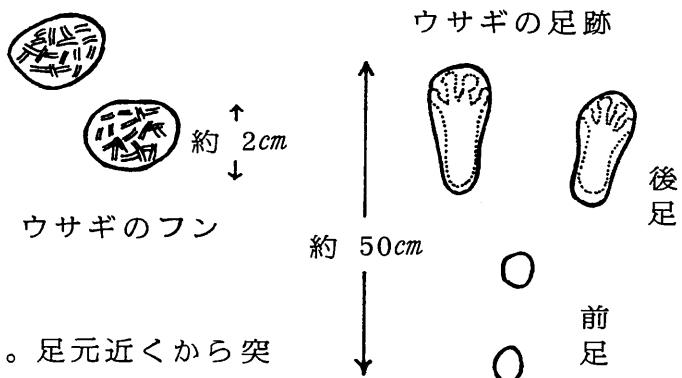
サルよけにカンシャク玉を持って歩く登山者がみえます。しかし、その必要はないのではと思っています。サルもヒトやカモシカなど大型ほ乳類に出会うことがあります、その時互いに警戒はしますが攻

撃したところは、今のところ見たことがありません。

[ノウサギ]

春のある日、ニリンソウが咲きみだれる沢ぞいの登山道を歩いていると、斜面上方から獣の足音がしました。見あげると、ノウサギが私に気づかずこちらに向ってきます。5mほどに近づいてようやく気づき、横に張り出した枝の下でとまりました。かくれているつもりでしょうが姿は丸見えです。少したって、ようやく逃げさりました。

靈仙山のノウサギは、冬も白化しないようです。足元近くから突然とび出すのはたいていノウサギのようです。



[ニホンリス]

現在ニホンカモシカ・ニホンジカの定点観察中ですが、その時岩陰から突然目の前にあらわれ、お互いに数秒にらみあうことがたびたびあります。私のまわりによく現われ、時には定点にはった雨よけ用工事シートの上を走りぬけたりすることもあります。



[ホンドギツネ]

タヌキ同様足跡などは目につきますが、目撃しにくい動物のようです。目撃例は3回しかありません。尾が太く体毛がオレンジに近く、非常にきれいです。私に気づいても一気に逃げるのではなく、途中で何度もふりかえりつつ走っていきます。双眼鏡でしか確認できないほ

どでも、キツネの方は私を認めるようです。

〔ホンドタヌキ〕

目撃例は、屋間ササ原のなかを首すじをかきつつ移動していった3頭づれを見た1回しかありません。以前、愛知県の猿投山頂上付近でためグソを見つけて驚きました。フンの中からタバコのフィルターが3つも出てきたからです。ワゴムも出てきました。残飯と一緒に地面のタバコの吸殻まで食べていたようです。

〔ニホンアナグマ〕

地元の人もあり見ないという動物です。しかし、新聞でもタヌキと称してアナグマの写真が掲載されていたことがありますし、見誤りも多いかもしれません。タヌキにくらべ耳が小さく、鼻が肌色に近いことで区別できます。目が悪いのか、かなり近づけます。

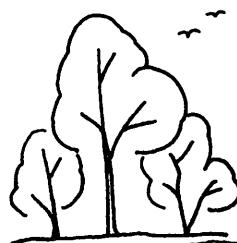
梅雨のある日、曇天でうす暗い小さな沢を掘っていたアナグマを見つけました。かなり速く掘り、鼻に土が入るのか時々クシャミをしていました。2m位まで近づいたところで逃げました。そこをさらに穴を掘ってみるとアカガエルが出てきました。採食のための作業だったようです。

〔ホンドテン〕

樹間に移動する2頭づれを1回目撃しました。イタチを大きくした形で、くねくねした動作で走り去りました。

〔ホンドイタチ〕

冬には雪中にトンネルを掘り移動することがあり、雪面から頭だけのぞかせていました。足元から飛びだしたこともあります。近くで観察することができる動物のようです。



カモシカ食害防除学生隊（カモシカの会）

都築尚子（名古屋市）

青く澄みわたった空、遠く彼方で聞こえる川のせせらぎ、突然思ひたつように鳴きだす鳥達。そんな風景に囲まれて、作業を少しやめて深呼吸しようと、大きく伸びをする私の目に入ってくるのは、今迄自分がしていたことと同じ作業を繰り返している人達、緑の木々、そしてはるかかなたにある南アルプス。

ここ松川で、私はカモシカ食害防除のポリネットはずし（秋はかぶせである）の作業をしている。いつ頃からかカモシカが俺ん家の桧を食うといって問題がおこり、「ほら生け捕りだ。」だの「殺せ殺せ」の合唱に林野庁までがのせられ、新聞にはカモシカ捕獲の数が書き続けられる。それに怒った当時の学生達、「自分達の手でカモシカを守ろう」なんて大きなことは言わなかつたかもしれないが、そんな闘志を内に秘め、食害防除にとポリネットかぶせを考え出したのだろう。それが私達の先輩といるべき？カモシカの会の方々である。

私は、大学1年の秋に初めて参加した。しかし、カモシカ問題については、まだ何もわからず、人に言われるままに参加していた。その時思ったことといえば、急峻な斜面を歩いてみて、「こんな所で仕事をするなんて林業家の人は大変だ。」ということだけだった。参加するごとに、少しづつカモシカ問題もわかり出し、そして自分なりに考えもしてみた。カモシカ問題にしろ、クジラ問題にしろ保護、保護を単に唱えるだけでは解決できない問題だと、私は思う。なぜなら私達人間と係わりあう産業と密接に問題がからんでいるからである。私の考えるカモシカ防除のボランティアは、カモシカを救うというのではなく、カモシカ問題を広くそして多くの人達に知ってもらい、少しでも多くの仲間を作っていくことだと思う。今年大学4年になった私は、多分これが参加できる最後の作業だと思いながら、4月1日私の後輩と他の大学の学生達と名古屋を出発して作業場である松川入へと向った。そして、無事1日半の作業を終えて松川入を後にした。

◎ 去年の12月にカモシカの会の名古屋支部ができました。皆さん、是非とも御協力をお願い致します。これを御覧になって私も参加したい

したいと思われた方は御連絡ください。また、ここに書いた私の意見に対するお考えもどうかお聞かせください。

〒46 名古屋市東区筒井三丁目26の27 都築尚子 937-5989

~~~~~(会員広場)~~~~~

★ 花の名前

糸魚川とみ恵 (名古屋市)

タンポポ分布調査の時がきているのに、今年は花が目につきにくいようです。先日本棚の整理中、薄っぺらな野花の本が見つかりました。小さな子供のための、イギリスの絵本です。

タンポポはダンディライオン、葉の形がライオンの歯にたとえられています。「あなたは、タンポポが雑草だなんて聞くとびっくりするでしょう。それはきっと1本の花から100本にも増えるからでしょう。よく見て下さい。とても美しい花だと思いませんか。

また、ペンペン草のところでは、名前はシェファーズ・パース。「この草はとても小さく、見落しやすい花です。サヤの形からこの名がつきました。昔々羊飼いたちは、こんな形のサイフやバックを持ち歩いていました。

この様に一つ一つの草の個性をとらえて、種々の各度から興味を持つように書かれています。私もつい、つりこまれてしまいました。自然保護とは何か、と考えさせられる今日この頃、こんな形で自然になじみ、大切さを知ってゆくことは意味があるのではないでしょうか。

★ 自然を大切に

西郷光男 (作手村)

今年もまた山しゃくやくの花を見る季節がやってきました。私も農林業で生活している者であり、あちこちと山の中は歩いているつもりでしたが、数年前にこの花と出合って以来、すっかりとりつかれてしまいました。

単株のそれは花後の姿として見たことはありますが、数十株の群生、しかも今日明日にも満開という、朝露をあびたほんぼり状のそれは、何とも形容のし難いものでした。あれから数年、付近一帯の山林で数カ所の生育地を発見し、これの保護育成に当っておりました。しかし、残念

な事にこの春先、数株の盗掘にあってしました。

最近余暇の増大に伴い自然を求める人の多くなつたのは、まことに喜ばしい事ですが、反面心ない人のおかげでせっかくの自然が壊されてもいます。山から持ち出すことによって、一夏で生命を失ってしまう草花も多い事ですから、どうかあまりにも衝動的に走ってしまうことなく、自然を大切にして下さい。山村に生を受け緑を守る一人として、皆様にお願いいたします。

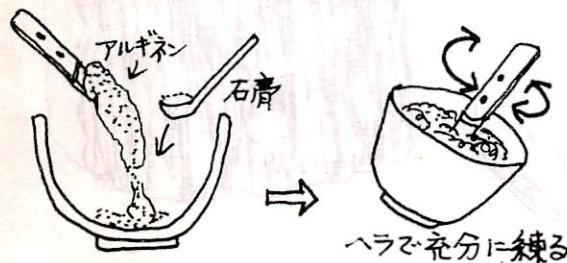
~~~~~ { 自然観察情報 } ~~~~~

★ 木の幹を石こうで作ってみよう 渡並喜一郎（名古屋市）

石こうで形をとるのは動物の足跡だけでなく、木の幹の表面の形をとるのにも使えます。観察会の時には幹の違いを理解させながらおみやげとしたり、あらかじめ作っておいて、観察会の場所にない樹木との比較をしたり、最後にその日に見た樹木の名前あてに利用したりできます。



- ① ボールに印象材と石こう少量を入れ、すばやくかきませる。

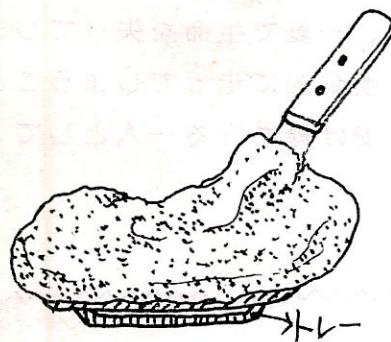


○トレイの材料（トレイ用レジン）や印象材等は歯科用材料店で買うとよいでしょう。

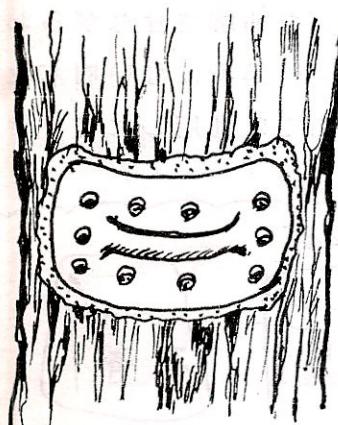
○印象材は、紛末状のものもあります。

○トレイは、木などで作るのもよいでしょう。

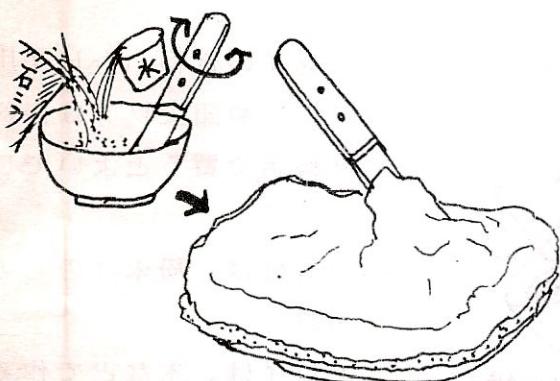
- ② 印象材の色（ピンク）が変わらな
いうちにトレイに盛る。



- ③ 木の表面に押しつける。（印象
材がかたまるまでそのまま）



- ⑤ 洗って木のくず等をおとしたも
のに石こうを流す。



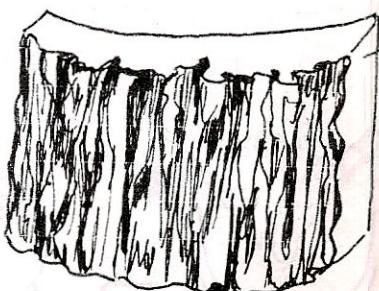
○印象材は30秒余一気にかきまわします。40秒（夏）位でかたまるので、手ばやく木につけます。

○石こうができ上ったら（6）
ノコギリで四角く切り、荒
いペーパーで仕上げます。
表面に透明ニスを塗るとな
およいででしょう。

- ④ 印象材が白く変色してかた
まつたら、木からはがし、
水で洗う。



- ⑥ 石こうがかたまつたら、印
象からはずす。



・きれいにカットします。

〔協議会行事報告〕

1 自然観察会企画運営委員会

58.4.30 於中小企業センター

県から協議会へ委託して実施する自然観察会（年6回各支部毎に実施）の実施方法を検討する。

2 すぐれた自然を見る会

参加11名

58.5.8 (日) 賤母学術参考保護林、田立の滝（長野県）

3 編集委員会

第1回 58.5.28 於名古屋市短歌会館

4 支部の活動

58.4.24 西三河 州原池～小堤西池（刈谷市）観察会 (11名)

58.4.24 名古屋 長久手町自然歩道観察会 (16名)

58.4.29 東三河 「春の自然教室…竹島」 {一般募集} (39名)

58.5.8 名古屋西 山村の自然と生活を学ぶ会（稻武町）(6名)

58.5.15 奥三河 段戸裏谷（設楽町）観察会 (13名)

58.5.22 名古屋 小堤西池（刈谷市）観察会 (16名)

59.5.29 知多 自然観察会現地調査（富具岬） (11名)

〔自然観察指導員全国大会－第2回－〕

5月14～15日に神戸市において全国大会が開催され、当協議会から大竹会長と佐藤が参加しました。その概要は次のとおりでした。

5/14 ・講演 「環境教育のあり方と今後の方向」 沼田 真

「人と自然の係り…サルとヒト」 広瀬 鎮

・現状報告会 愛知（行政との係り）、滋賀、長崎、熊本

5/15 ・分科会、全体会による検討

○各団体とも事務等の費用の負担が問題となっている。行政を有効に利用することも必要と考えられている。

○観察会で採集する者には、はっきりした態度で注意すべき。採集している現場に当たった時の方針について検討。（腕章の効力等）

○観察会の安全対策には十分注意すること。保険も必要であるが、事前に危険防止について十分考慮しておくべき。

[行事案内]

| 期日 | 主 催 | 内 容 | 備 考 |
|-------------|----------------|------------------------------------|-----------------------|
| 5 8
7. 3 | 名古屋 (東西)
支部 | 自然観察会現地調査
(東谷山) | 支部員通知済
9:30パーク集合 |
| 7. 10 | 知多支部 | 自然観察会現地調査
(富具岬) | 集合 9:30
名鉄野間駅前 |
| 7. 10 | 西三河支部 | 平原ノ滝 (西尾市)
観察会 / 集合 東岡崎駅 8:10現地 | 支部員別途通知
9:30 |
| 7. 10 | 奥三河支部 | 自然観察会現地調査
(鳳来寺山) | 支部員通知済
集合 10:30門谷 |
| 7. 16 | 協議会 | 合同調査委員会 (セミ、
カワセミ、カシ類) | 委員別途通知
2:30中小企業センタ |
| 7. 31 | 奥三河支部
(協議会) | 自然観察会 {一般募集}
鳳来寺山 | 申込制 (自然保護
課あて) |
| 8. 6 ~
7 | 東三河支部 | 静岡県周智郡森町の
観察会・懇親会 | 支部員通知済
有料 (安い) 泊り |
| 8. 21 | 名古屋 (東西)
支部 | 八事興正寺の森
観察会 | 支部員別途通知
集合 8:30 寺内 |

※ 他の支部の行事にも参加できます。

[会員移動]

- (加入) ・鈴木弘之 名古屋市西区上名古屋3-16-16 (名西)
 ・筒井義一 凤来町塩瀬字下貝津11 自営 (奥三) ※
 ・藤原伸雄 凤来町大野字上野61 自営 (奥三) ※

{ 編集後記 }

若葉の季節から梅雨の季節へと入ってきました。この時期は雨天の日が多く、不快指数も高いので、自然観察も苦労します。しかし、雨の止むのをじっと待っている小鳥達を、傘の中から眺めていると苦労がむくわれるようです。梅雨があければ、本格的な夏です。夏には、一度は自然の中へ入ってみましょう。乞投稿。(多和田)